

各ブロック研修会など

令和元年度

日本赤十字社診療放射線技師会 北海道地区会

第 29 回総会並びに業務研修会 日程表

開催日時 : 令和元年 10 月 05 日 (土) 12:00 から
令和元年 10 月 06 日 (日) 12:00 まで
開催場所 : 富士フィルム札幌ビル
札幌市中央区大通西 6 丁目 1

第 1 日目 令和元年 10 月 05 日 (土曜日)

12:00 ~ 12:30 受付・参加登録

12:35 ~ 14:45 会員研究発表

座長・・遠藤 裕孝・千葉 真貴子

(1) 腰椎 DEXA わじれ腰椎に注意は必要か？

伊達赤十字病院 ○中村 貴彦

(2) 手術中の透視撮影(股関節)における医療スタッフの水晶体の被ばく低減について

旭川赤十字病院 ○渡辺 香歩

(3) 骨密度測定装置更新に伴う体厚依存性の検討

北見赤十字病院 ○秋谷 俊行

(4) 超音波検査におけるアキレス腱断裂の描出

浦河赤十字病院 ○天戸 康博

(5) 道東の乳がん検診受診率向上を目指して

釧路赤十字病院 ○小川 亜里沙

(6) デジタルマンモグラフィ撮影条件の基礎的検討

北見赤十字病院 ○中場 敏子

(7) 平均乳腺線量 (AGD) と視覚評価を用いたマンモグラフィ装置の撮影条件の検討

旭川赤十字病院 ○千葉 早也加

14:50 ~ 15:20 特別講演

座長・・・石川 辰美

「災害医療概論」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部 及川 林 様

15:30 ~ 16:30 グループワーク

「災害時の診療放射線技師の役割と現状」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部 及川 林 様

16:40 ~ 集合写真撮影

16:50 ~ 北海道地区会 総会

19:00 ~ 情報交換会

第2日目 令和元年10月06日(日曜日)

9:00 ~ 9:15 受付

9:20 ~ 10:20 指定演題 「医療法改正における各施設の対応の現状」
各10施設

10:30 ~ 11:30 講演 被ばく管理システムの紹介

講演① 線量管理の動向と被ばく線量管理システム DOSE MANAGER

富士フィルムメディカル株式会社

ITソリューション事業部 開発部 商品企画グループ 五十嵐 昭人 様

講演② Dose Checker のご紹介

株式会社ジェイマックスシステム

営業部 営業推進グループ 箱石 卓 様

11:30 ~ 12:00

会員講演：「今なぜ線量管理が必要か？その対策。」

旭川赤十字病院 医療技術部 放射線技師長 増田 安彦

令和元年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック業務研修会 報告

盛岡赤十字病院 川原 猛

9月28日、盛岡赤十字病院2階記念講堂において、東北ブロック6施設とメーカーより40名参加していただいた。先んじて代表者会議を行ったのち、会長講演から特別講演・教育講演・シンポジウム・記念撮影と会を進めた。

はじめに日本赤十字社診療放射線技師会 安彦会長より、「日本赤十字社診療放射線技師会のこれからの活動 —日本赤十字社の一員としてグループで取り組む—」として講演をいただきました。特別講演では、二題の講演を行った。1題目は災害医療支援部理事の松井久男先生から日本赤十字社と当会の災害医療支援部活動についてご講演頂いた。災害医療支援部の成り立ちや役割について教えて頂いた。2題目は災害医療支援部員の嶋田裕子先生から診療放射線技師の国際貢献についてご講演頂いた。ERU要員になるには、まず英語能力が必要不可欠でTOEIC730点以上というのが高い壁になるようだ。また、嶋田先生がERU要員を志したきっかけ、くじけそうになったときのモチベーションの保ち方、e-ラーニングなどが英語の勉強にもなることを教えて頂いた。この講演が国際貢献に対して興味をもつ、きっかけのひとつとなった。

教育講演では、線量管理ソフトAMDS（アゼモトメディカル）とRadimetrics（バイエル）の2メーカーに線量情報の取得方法からデータの活用まで講演していただいた。

どちらのメーカーも線量情報はRDSR、DoseReportなど施設にあわせた取得方法を相談できる。また、その後の活用については個人の被曝線量の把握はもちろん、様々な集計機能や撮影条件の検討資料になる機能など、それぞれのソフトの特徴を説明いただいた。

シンポジウムではテーマ（これからの被ばく線量管理について —現状と課題）に沿って各施設から現状と課題を報告していただいた。現在CTにおいては線量情報サマリーをSC情報として保存している施設が5施設、さしあたりRISに手入力している施設も3施設あった。線量管理ソフトを導入している施設は無く、どの施設も今後検討する段階であった。厚労省の正式な見解が見えない状況の中ではあるものの、他のモダリティーを含めて今後どのような方向性になっていくのか各施設間にて情報共有を行い対応していくことが重要であるという意見が挙げられた。

すべてのプログラムを終了し、会長そして災害医療支援部からの松井さんと嶋田さんを中心に記念撮影を行い、情報交換会は盛岡市内の「浜来（はまらい）」に場所を移しながら、時間の許す限り場所を移しつつ遅くまで有意義な情報交換を行った。

令和元年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック業務研修会

開催日：令和元年9月28日（土）13：00～17：30

会場：盛岡赤十字病院 2F 記念講堂

【プログラム】

総合司会 盛岡赤十字病院 川原 猛

12：30 受付開始

13：00 代表者会議

13：25 開会の挨拶

盛岡赤十字病院 川原 猛

13：30 会長講演

座長 盛岡赤十字病院 川原 猛

「日本赤十字社診療放射線技師会のこれからの活動

ー日本赤十字社の一員としてグループで取り組むー」

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 安彦 茂（仙台赤十字病院）

14：00 特別講演

座長 盛岡赤十字病院 佐々木 駿

「日本赤十字社と当会の災害医療支援部活動」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部理事

松井 久男（長浜赤十字病院）

「診療放射線技師の国際貢献」

日本赤十字社診療放射線技師会 災害医療支援部員

嶋田 祐子（大阪赤十字病院）

15：10 休憩（10分）

15：20 教育講演

座長 盛岡赤十字病院 佐々木 好未

「被ばく線量管理ソフト Radmetrics」 バイエル株式会社

「被ばく線量管理ソフト AMDS」 アゼモトメディカル株式会社

16：20 休憩（10分）

16：30 シンポジウム

座長 盛岡赤十字病院 厚谷 祥一

テーマ 「これからの被ばく線量管理についてー現状と課題」

八戸赤十字病院 松倉 裕次

秋田赤十字病院 田口 浩

盛岡赤十字病院 大山 浩貴

仙台赤十字病院 鈴木 陽

石巻赤十字病院 今野 基之

福島赤十字病院 佐藤 勝行

17：30 集合写真撮影・閉会の挨拶

施設見学（希望者）

19：00 情報交換会





第 32 回日本赤十字社診療放射線技師会東部ブロック研修会開催報告

令和元年 11 月 9 日（土）10 日（日）足利赤十字病院講堂において標記研修会を開催し、来賓を含め、20 施設 67 名（足利を除く）の参加が得られた。

今回の研修会は、ディスカッション形式のプログラムに多くの時間を割いたことが特徴である。1 日目におこなわれた「人事交流」を目的としたテーブルディスカッションでは、「中堅職員」3 グループと「担当部署別」5 グループに分かれ、それぞれが決定した課題についてグループワークを展開し、それを発表し、施設代表者が評価をおこなった。各グループともに活発な討議がされていたように思われる。2 日目には、足利赤十字病院放射線診断科部長の潮田隆一先生のご協力のもと、「放射線技師のための症例検討会」をおこなった。これは提示された画像に対し、指名された参加者が所見を述べるという企画であったが、初めての経験で、最初のうちは戸惑いも感じられたが、時間が経つにつれ、物怖じせず、発言している様子が印象的だった。

施設代表者会議は、医療機器共同購入と患者の被ばく管理等、放射線安全利用のためのガイドラインに関することを中心に議論が交わされた。

研修会プログラム

11月9日（土）

12:00 受付開始

総合司会：深澤 千穂（足利）

12:45 開会挨拶

足利赤十字病院 久保田 健夫

12:50 日本赤十字社診療放射線技師会会長挨拶

仙台赤十字病院 安彦 茂

13:10 教育講演

座長 須藤 昌彦（足利）

「単純X線撮影で実現する胸部動態解析技術」

～コニカミノルタ最新技術紹介～

コニカミノルタヘルスケア営業推進部X線営業部

山口 晃史 先生

14:20 災害支援部講演

座長 簾谷 和男（足利）

「原子力災害時の行政の体制と救護活動における診療放射線技師の役割」

長浜赤十字病院 放射線科 松井 久男 先生

15:20 テーブルディスカッション

「中堅職員及び業務担当別グループワーク」

リーダーファシリテーター

長瀬 光臣

他 足利日赤スタッフ

(15:30) 施設代表者会議（別室にて1時間程度 終了後グループワーク発表評価）

18:30 情報交換会

ニューミヤコホテル足利本館 3F大宴会場

11月10日(日)

総合司会：深澤 千穂(足利)

8:50 一般演題発表 I 7 演題

座長 三浦 孝明(足利)

寺内 貴志(足利)

1. 一般撮影マニュアル改善への取り組み
さいたま赤十字病院 大川 斗喜也
2. 手関節X線画像を利用した骨密度測定法の検討
大森赤十字病院 小田 幹也
3. 当院の放射線防護衣の管理における取り組み
横浜市立みなと赤十字病院 小林 公介
4. X線CT位置決め画像を用いた放射線防護用前掛の管理
那須赤十字病院 山下 涼香
5. 当院での中心静脈カテーテル(CVC)先端位置確認における放射線技師の関わり
深谷赤十字病院 浅見 有希
6. 骨転移画像解析ソフトウェアVSBONE BSIの新規運用における検討
水戸赤十字病院 千木崎 信助
7. コリメーターの回転角度によるVMATの線量分布への影響
武蔵野赤十字病院 安廣 哲

10:00 一般演題発表 II 8 演題

座長 中室 智之(足利)

平田 千咲(足利)

1. 股関節のトモシンセンス撮影における被ばく線量の測定
さいたま赤十字病院 後藤 卓登
2. X線透視TV室を利用した人工関節撮影時の入射表面線量の評価と課題
秦野赤十字病院 吉田 瑠花
3. Press Through Pack 誤飲症例に対するプロトコールの検討
横浜市立みなと赤十字病院 菅野 健志
4. 放射線科における視覚障害者への検査対応
水戸赤十字病院 朝倉 佐知子
5. 視線検出器を用いた画像操作装置の開発
前橋赤十字病院 佐藤 充
6. 内視鏡的逆行性胆道膵管造影に適した透視画像の収集処理条件の検討
大森赤十字病院 伊藤 大
7. 頭部3D撮像法SPACEにCAIPIRINHAを使用した場合の画質特性の検討
長岡赤十字病院 山田 朋奈
8. 救急MRI検査における脳梗塞と頸動脈プラークとの関係について
那須赤十字病院 阿部 直央

- 11:00 特別企画
「診療放射線技師のための症例検討会」
座長 大川 公利 (足利)
足利赤十字病院放射線診断科 部長
潮田 隆一 先生
- 12:30 次回開催当番病院挨拶
前橋赤十字病院 渡邊 寿徳
- 12:40 閉会挨拶
病院見学 (希望者のみ)

以上

2019年11月18日

足利赤十字病院 久保田 健夫

第 28 回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会開催報告

開催担当病院 神戸赤十字病院
放射線技師長 古東正宜

令和 2 年 2 月 1 日(土)～2 月 2 日(日)の二日間、神戸市内のホテル北野プラザ六甲荘にて第 28 回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会を神戸赤十字病院が担当病院として開催し来賓を含め 12 施設から 78 名が参加した。

初日は、開会式後にキヤノンメディカル社のランチョンセミナーを皮切りに若手の登竜門の位置づけとして研究発表会を行い、11 演題の発表では活発な質疑応答がなされた。特別講演は、昨年に引き続き安藤英次先生（大阪ハイテクノロジー専門学校）をお招きし「腰椎立位 PA 半切撮影の有用性」を講演して頂き、本撮影法の有用性を分かり易く熟演され参加者は真剣に聴講していた。講演後は、ホテル内の別会場で情報交換会を行った。

二日目は、当院が数年前から定期的に行っている症例検討会をベースに企画した、「実症例から学ぶ救急患者の画像読影補助」を行った。内容としては、6-7 名毎、10 班にグループ構成し、4 症例（転落外傷・消化器疾患・脳疾患）について各グループ内でバイタルなどの来院前情報を元に臨床画像を PC で閲覧しながら参加者全員で画像読影を行うものである。グループ構成は、前日の情報交換会と同メンバー構成であったために今回が初対面ではなく、参加者は活発に意見交換し画像読影を行っていた。最後は当院と県災害医療センターで IVR を中心に活躍されている木下めぐ美 副部長の「救命医療における大動脈解離の画像診断」をテーマとした教育講演を聴講し、二日間の研修会が終了となった。

今年度の研修会は、研究発表会や救急撮影の画像読影補助などの学術面を重視することとした。これで参加された多数の会員に対して、心より感謝申し上げるとともに本近畿ブロック研修会の開催報告とする。



プログラム

令和2年2月1日(土)

会場：ホテル北野プラザ六甲荘：「マジョラム」

11:30 受付

12:00 開会式

司会 岸本 義幸(神戸赤十字病院)

● 開会挨拶

神戸赤十字病院 放射線科部 技師長 古東 正宜

● 開会施設代表者挨拶

神戸赤十字病院 院長 山下 晴央

● 会長挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 安彦 茂

● 主催者挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会 近畿ブロック理事 藤原 朗

● オリエンテーション

担当 岸本 義幸(神戸赤十字病院)

12:20 ランチョンセミナー

座長 松田 智史(神戸赤十字病院)

「AI画像再構成技術による高速・高分解能の実現」

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 国内営業本部 MRI 営業部

萩原 友基 先生

— 休憩(10分) —

13:20~15:30 施設代表者会議

会場：ローズマリー西

13:20 一般演題 I (1~4)

座長 福嶋 英人(神戸赤十字病院)

14:05 一般演題 II (5~8)

座長 上江 孝典(神戸赤十字病院)

14:50 一般演題 III (9~11)

座長 小川 宗久(神戸赤十字病院)

— 休憩(10分) —

15:30 特別講演

座長 小野寺 尚(神戸赤十字病院)

「腰椎立位PA半切撮影の有用性」

学校法人 大阪滋慶学園大阪ハイテクノロジー専門学校 診療放射線技師学科 専任教員

安藤 英次 先生

17:00 オリエンテーション

担当 辻居 賢一(神戸赤十字病院)

18:00 情報交換会 「レモンバーム」

司会・進行 辻居 賢一(神戸赤十字病院)

令和2年2月2日(日)

会場：ホテル北野プラザ六甲荘：「マジョラム」

9:00 ディスカッション

「実症例から学ぶ救急患者の画像読影補助」

進行・解説 松田 智史・小川 宗久・宮安 孝行(神戸赤十字病院)

— 休憩(10分) —

10:40 教育講演

座長 浅妻 厚 (神戸赤十字病院)

「救命医療における大動脈解離の画像診断～急性期合併症から血管内治療まで～」

兵庫県災害医療センター 放射線科 副部長

木下 めぐ美 先生

12:00 閉会式

司会 新井 純一 (神戸赤十字病院)

● 次回開催施設挨拶

京都第一赤十字病院 放射線科 技師長 加藤 良美

● 閉会挨拶

神戸赤十字病院 放射線科部 技師長 古東 正宜

● 記念撮影

12:30 解散



開催担当:神戸赤十字病院 古東正宜技師長



日本赤十字社診療放射線技師会 安彦 茂会長



ディスカッション:「実症例から学ぶ救急患者の画像読影補助」風景

令和1年度日本赤十字社診療放射線技師会 中国・四国ブロック研修会 報告書

日時： 2019年11月2日 14:00～17:00 11月3日 9:00～12:00

会場： 高知赤十字病院 大会議室

参加人数： 60名



《大会概要》

●研修会1日目

【会長講演】

『日本赤十字社の一員としてグループで取り組む』

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 安彦 茂



【災害特別講演】

『新築移転した高知赤十字病院における、南海トラフ地震対策』

高知赤十字病院 救急部副部長 山崎 浩史

『大規模災害時における放射線科の対応』

高知赤十字病院 放射線科部 高橋 健次郎

『看護師の視点から見た、災害時と戦傷外科の画像検査』

高知赤十字病院 救急救命センター看護師 丁野 美智



【災害医療支援部講演】

『国際救援活動における診療放射線技師の役割と現状』

日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部 口井 信孝

●研修会 2日目

【会員研究発表】

- ・『CTの技術進化が手術支援 3D 画像の image quality に及ぼす影響』
岡山赤十字病院 太田 翔也
- ・『Multi-Shot Turbo Spin Echo (MS TSE) を用いた Diffusion-Weighted imaging (DWI) における TR と pixel size の変化が Apparent Diffusion Coefficient (ADC) に与える影響』
岡山赤十字病院 吉岡 直之
- ・『当院における条件付き MRI 対応 CIEDs 入り患者の MRI 撮影の取り組みについて』
高松赤十字病院 野上 華代
- ・『門脈圧亢進症の門脈側副血行、肝臓体積(L)、脾臓体積(S)、S/L ratio 評価における系統的マルチ 3D-CT 構築の試み』
高知赤十字病院 白石 卓也

- ・『大動脈弁の石灰化量が TAVI 弁留置後に生じる PVL 量に及ぼす影響の検討』
徳島赤十字病院 山下 雄也
- ・『仰臥位低血圧症候群と下大静脈造影効果について』
松江赤十字病院 田代 真人
- ・『圧縮センシングの画像特性について』
高知赤十字病院 菊地 真司
- ・『当院における心電図同期心筋 SPECT 画像の撮影条件の検討』
高知赤十字病院 太田 裕司
- ・『放射線情報システム (RIS) への新システム移行と使用経験』
徳島赤十字病院 赤川 拓也
- ・『義歯アーチファクトによる頸部動脈描出不良の改善について』
鳥取赤十字病院 池原 準



【メーカー講演】

- ・『線量管理の動向と被ばく線量管理システム DOSE MANAGER について』
富士フィルムメディカル株式会社 IT ソリューション事業部開発部 五十嵐 昭人
- ・『求められる品質管理/求めるべきツール』
アクロバイオ株式会社 芳忠 寿一

【施設見学】

希望者で実施。

令和元年 11 月 2 日・3 日の 2 日間、高知赤十字病院 大ホールにて第 9 回 日本赤十字社 診療放射線技師会 中国・四国ブロック研修会を開催し、各施設より 60 名の参加がありました。

研修会初日は、まず日本赤十字社放射線技師会 安彦会長より会長講演として、診療放射線技師も日赤グループの一員として今後の活動における必要性を講演していただきました。続いて災害救護特別講演では、当院が今年5月に新築移転したタイミングもあり、当院の救急部副部長 山崎Drから来たる南海トラフ地震に対しての新築移転における病院構造・周辺地域との連携・対策について、当院所属の高橋診療放射線技師から当院放射線科の大規模災害への対応についての講演がありました。そして講演3では、当院救命救急センター所属 丁野Nsより自身の国際救援活動での経験から災害時・戦傷外科の画像検査について講演がありました。大規模災害に対しては予想内での対策とはなりますが、免震耐震構造となっている部分や津波等の水害への対策が紹介でき、今後、病院新築移転する各施設の参考にしていただければ幸いです。

災害医療支援部講演では、口井氏よりご自身の診療放射線技師として国際救護活動に携わった経験を講演していただきました。災害救護特別講演3で講演いただいた丁野Nsと災害医療支援部講演での口井氏の講演内容は、普段自分達で経験することのできない海外での活動の内容であり大変興味深く楽しい講演でありました。

研修会2日目は、各参加施設より10演題の会員研究発表から始まりました。MRI・CT・RI・RISなどの各モダリティ等に関する発表があり、各施設でそれぞれ日頃より実務に反映できる研究を行って、大変参考になる演題が多かったです。

研究発表のあとはメーカー講演が2社からあり、線量管理の動向や被曝線量管理システム、品質管理についての内容でした。来年の医療法改正に伴う、被曝線量管理・撮影装置の品質管理について大変参考になりました。

最後に、当院の施設見学を希望者で行い、今回の研修会は閉幕いたしました。2日間に渡り多くの会員に参加いただき、年代を越えた活発な意見交換・各施設の現状や今後の運営に対しての情報交換ができ大変有意義な研修会となりました。今回、ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。



令和元年度 第20回日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会報告書

今回の研修会は、熊本健康管理センターが担当施設となり令和2年1月11、12日に開催しました。昨年10月開催予定が大型台風19号の影響で急遽延期とし、会員、講師の皆様にはご迷惑お掛けしましたが、再度調整して頂き58名の参加で以下の内容で研鑽しました。

日時 令和2年1月11日（土）13：20～17：00

令和2年1月12日（日）09：20～11：50

場所 日本赤十字社熊本健康管理センター 南館 5階ホール

【プログラム】

（1日目：1/11）

○ 開会挨拶（13：20）

担当施設 熊本健康管理センター 放射線課長 長野勝廣



○ 教育講演（13：30）

『国際救援活動よもやま話』

日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部 口井 信孝 先生



○腰痛体操（14：30）

日本赤十字社熊本健康管理センター 運動指導士 下川 詩季子 先生



○ 会長挨拶（15:10）

日本赤十字社診療放射線技師会 安彦 茂 会長



○一般演題（15:25）

1. 『CT室における医療安全の取り組み～ベッド破損事故での要因分析～』
熊本赤十字病院 村上 博司 会員



2. 『装置の更新によるマンモトーム生検の違い』

大分赤十字病院 木下 実咲 会員



3. 『当院における FPD の撮影条件の決定方法 ～整形領域～』

福岡赤十字病院 永尾 卓也 会員



4. 『経時差分処理システムの使用経験』

日本赤十字社熊本健康管理センター 荒木 洋明 会員



- 代表者会議 (16:20)
- 情報交換会 (19:00)

(2日目：1/12)

○メーカー講演 (9:20)

『診療用放射線の安全管理に係る医療法施行規則改正について』

千代田テクノル アイソトープ・医療機器事業本部 工藤 輝 先生



○特別講演 (10:30)

『思い込みのワナ～認知とパーソナリティが人間関係に影響を及ぼす』

放送大学 熊本学習センター 客員准教授 河添 博幸 先生



○次開催施設挨拶 (11:50)

鹿児島、今津、嘉麻赤十字病院 合同開催

嘉麻赤十字病院 岩本 和久 様



○閉会 (12:00)



各ブロック研修会など

令和3年度

第 31 回日本赤十字社診療放射線技師会北海道地区会研修会開催報告

2021 年 10 月 2 日（土）に、第 31 回研修会を開催しましたのでご報告させていただきます。

参加者数：54 名（会員数 105 名）

北見赤十字病院を基幹会場とし、道内 10 施設に会場を設置しオンライン接続しました。

（ZOOM 利用）

必要機材を準備するところから始め、施設間の打ち合わせとリハーサルを繰り返したおかげで、当日は大きなトラブルなく円滑に会を進行することが出来ました。

内容については、添付したプログラムをご覧ください。

この他に、代表者会議を年 3 回の頻度でオンライン開催しております。広大な北海道では、オンライン技術が非常に役に立ちます。ZOOM アカウントを、ご用意いただいたことに、感謝を申し上げます。

第 31 回

日本赤十字社診療放射線技師会
北海道地区会研修会

開催日：2021年 10月 2日(土)
オンライン開催

研修会プログラム

- 14時00分:開会 総合司会 北見赤十字病院 長島 正直
- 開会の挨拶 会長 小清水赤十字病院 岩田 雄一
- 14時10分:会員研究発表 座長 釧路赤十字病院 熊谷 敬広

1.北見赤十字病院と北海道立北見病院の連携

北海道立北見病院 齊藤 亮

2.急性期脳梗塞における頭蓋内BlackBlood-MRAの有用性

北見赤十字病院 松田 聖司

3. FPD導入に伴う撮影条件の検討

旭川赤十字病院 澤谷 七星

4. EOBプリモビスト造影検査における撮影タイミングのばらつきの検討

旭川赤十字病院 飯田 紘久

————— 休 憩(10分) —————

- 15時00分:技術情報交流

I . 発熱患者および新型コロナ患者に対する検査対応について

座長 旭川赤十字病院 高田 直行

①北見赤十字病院:安藤 直人

④釧路赤十字病院:太田 慎二

②伊達赤十字病院:竹内 佳輝

⑤浦河赤十字病院:藤村 仁

③栗山赤十字病院:金子 雄生

————— 休 憩(10分) —————

II . 医療放射線安全管理についての各施設の対応

座長 北見赤十字病院 古川 望

①置戸赤十字病院:大塚 公貴

④函館赤十字病院:川井 明彦

②旭川赤十字病院:市川 仁

⑤清水赤十字病院:中川 英之

③小清水赤十字病院:岩田 雄一

- 17時00分 閉会の挨拶 伊達赤十字病院 山内 修司

北見赤十字病院と北海道立北見病院の連携

斎藤 亮 毛利 俊明 高柴 裕司 石黒 智之
北海道立北見病院

Key word :

【要 旨】平成30年4月に北海道立北見病院が指定管理者制度を導入し、オホーツク圏域における高度・専門医療の提供体制を更に充実するためには、地方センター病院である北見赤十字病院と道立北見病院の一体的運営が最善の手法であり、地域完結型の医療提供体制の構築に向け、日本赤十字社運営となりました。

放射線業務も北見赤十字病院と連携し、画像や撮影技術の共有や連携を行っています。機種も同じCTが導入されているので、術前のCT撮影技術や手術に必要な3D構築などの作成方法や造影のタイミングなど、定期的に勉強会を開き行っております。(当院からはアブレーション前の撮影、A型解離の撮影etc)

緊急手術適応の場合はすぐに薄いスライスをCD作成してもらい、道立北見病院で構築したりといったことも行っております。今後はお互いの病院のPACSが繋がっていくのでそのような画像のやりとりの必要がなくなるということもできるようになっていきます。今の現状や今後の連携などを報告します。

急性期脳梗塞における頭蓋内BlackBlood-MRAの有用性

松田 聖司、佐藤 裕樹、大友 厚志、岩橋 秀樹
越智 啓介、秋谷 俊行

北見赤十字病院

Key word :

【要 旨】近年、急性期脳梗塞に対し様々な治療がなされており、当院においてもt-PAや血管内治療等、症状や病期に合った治療を行っている。

治療方針を決定するにあたり事前に病期を知るための検査は非常に重要で、短時間かつ的確な検査内容が求められる。

従来、血流情報の確認は3D-TOF法で行ってきたが、3D-TOF法では血栓による流速の低下や動脈硬化、頸動脈狭窄等で誤った血流情報を呈する場合があります、塞栓部位の同定が困難な例がしばしば見られた。そこで我々は塞栓部位の同定をBlackBlood-MRAを追加撮像することで把握し、血管内治療を行う際の治療計画やデバイス選択に役立てている。

今回、頭蓋内BlackBlood-MRAのプロトコル検討と血管内腔評価が有用であった症例を報告する。

FPD導入に伴う撮影条件の検討

澤谷 七星
旭川赤十字病院

Key word :

【要旨】【背景・目的】当院では、一般撮影において従来のCR装置に代わりFPD装置が導入された。Cslを用いたFPDとCRのDQEを測定し、FPDはCRに比べ、どの程度線量を低減できるか検討した。

【方法】MTFを矩形波チャート法で、NNPSを二次元フーリエ変換法で求めた。CRのDQEを基準としてFPDのDQEの比を求めることで各システムの性能の比較を行った。

【結果】CRとFPDのDQEは空間周波数1.0cycles/mmにおいて、それぞれ0.086、0.30であった。DQE比を算出すると3.5であった。

【結語】解像特性、ノイズ特性ともにFPDは優れていた。得られたDQE比より、FPDではCRの約1/3.5の線量で同等の画質が得られる可能性が示された。

EOBプリモビスト造影検査における撮影タイミングのばらつきの検討

飯田 紘久、野村和弘、棒手康弘、高田直行、池田悠太、千葉早也加
旭川赤十字病院

Key word :

【要旨】当院のEOBプリモビスト造影検査のダイナミック撮影はbolus tracking法を用いて撮像している。撮影している技師により動脈相の撮像タイミングのばらつきがみられたため撮影タイミングを変更した。そこで今回変更前後で撮影タイミングのばらつきが改善しているかレトロスペクティブに検討した。

【変更点】ダイナミック撮影は造影剤を静注後Bolus tracking法で透視を行い、造影剤が左室に到達したのを確認したところから撮影開始していた。その際、撮影までのdelay timeは息止めを含めて10秒前後だった。改善後はbolus tracking法の透視をサブトラクション画像に変更し、造影剤の到達を下行大動脈で確認するようにした。撮影までのdelay timeは息止め含めて5秒前後に減少した。

【方法】視覚評価による撮影タイミングの良否判定を行った。次にCNRを測定し、造影効果の比較を行った。

【結果】視覚評価、CNRともに変更後が統計的に優位に高い結果となった。

【結論】技師間で動脈相の撮影タイミングのばらつきが減少した。

資料

第31回日本赤十字社診療放射線技師会 北海道地区会総会結果

| 議案 | 承認 | 全会員数105名 | |
|--------------|-----|----------|--|
| | | 承認しない | |
| ①令和2年度事業報告 | 103 | 0 | |
| ②令和2年度会計報告 | 103 | 0 | |
| ③令和3年度事業計画案 | 103 | 0 | |
| ④令和3年度予算案 | 103 | 0 | |
| ⑤第5章第17条の改正案 | 103 | 0 | |
| ⑤第5章第18条の改正案 | 103 | 0 | |
| ⑤第5章第19条の改正案 | 103 | 0 | |
| ⑤第5章第20条の削除 | 103 | 0 | |

※全ての議案で、全会員数の1/2以上の承認をいただきましたので、本議案は承認されたとみなします。

■以下の質問があり、回答しました。

1. 総会回答用紙の「②令和2年度会計報告・10周年事業収支報告を承認しますか？」とありますが、10周年事業収支報告は見当たりません。

回答用紙作成時のミスです。10周年事業は行っておりません、オホーツク技師会で使用したものを再利用したので、そのようなミスとなりました。(訂正した回答用紙を再送付しております。)

2. 令和2年会計・令和3年会計について、2年度は本部助成金が無く、3年度に2年分合わせて振り込まれたという認識でよいですか？

特別措置として、希望した地区会に、全国技師会から、2年分のブロック助成金の支給がございます。(昨年分の振り込みはこれからです)

3. 規約 第18条改定について、以前は、総会に合わせて 研修会開催の規定がありましたが、新しい規定では、研修会の扱いはどのようにする予定でしょうか？また、総会等の議決の規定については、変更しなくても問題は起きませんか？(デジタル開催や評決についてなど)

研修会は、事業計画として、総会に上程します。

議決の方法については、ZOOMを利用したとしても、従来とおりに参加者の挙手で行いますので、問題ないと思います。デジタル開催の文言の追加については、オンライン開催が一つの方法論として一般的になりつつあるので、省略しても可能と判断しました。

令和3年度 日本赤十字社診療放射線技師会 東北ブロック研修会活動報告

八戸赤十字病院 東北ブロック理事 松倉 裕次

令和3年度東北ブロック研修会は、令和4年2月26日にZOOMを用いてWeb開催致しました。担当である八戸では、病院内の「日赤ホール」を会場として開催としましたので、その様子を写真も交えて報告致します。

○会長講演では、正者 智昭 会長に、日本赤十字社診療放射線技師会の取り組みについて講演していただきました。



共同購入や人材育成についての内容は興味深く、今後の業務においても検討すべき課題と感じました。

○一般演題では、各施設から発表があり全部で4題の演題を行っていただきました。





特に CT に関する演題が多く、また原子力災害拠点病院についての報告もあり、大変参考になりました。

○共同テーマ発表では、新型コロナウイルス感染症への対応として、東北ブロックの各施設より発表していただきました。



PPE の着用の関しては各施設とも同様で、また、コロナ患者の胸部 Xp と CT を撮影するところがほとんどでした。質問ではコロナ患者の MRI 検査は行っているかなどが挙げられました。

○特別講演では、千代田テクノル株式会社の工藤 亮裕 様より、眼の水晶体の等価線量の実態と被ばく低減について講演していただきました。



水晶体の上限が変更になったことから、現状を報告していただきました。
結果から消化器 Dr が線量が多いことを指摘され、ついで循環器 Dr や整形外科 Dr が挙げられていました。

今回は東北ブロック初の ZOOM 使用による Web 開催となりましたが、大きなトラブルもなく皆様のご協力により成功裏に終了することができました。

参加していただいたすべての方々および本技師会会長、東北ブロック各施設の所属長並びに技師、常任理事の皆様のご尽力に深く感謝し、報告とさせていただきます。

プログラムについては以下をご覧ください。

(開催前に作成したプログラムであり、実際開催した時間とは多少異なります。)

令和3年度 日本赤十字社診療放射線技師会 東北ブロック研修会

開催日 : 令和4年2月26日(土) 13:00~15:50

開催場所 : 八戸赤十字病院 (日赤ホール Web 開催)

参加費 : 無料

プログラム

総合司会 八戸赤十字病院 大澤 哲平

・12:30~ ZOOM 入室開始および説明

・13:00~13:05 開会の辞 東北ブロック理事 八戸赤十字病院 松倉 裕次

・13:05~13:35 会長講演 座長 八戸赤十字病院 松倉 裕次

【日本赤十字社診療放射線技師会の取り組み】

日本赤十字社診療放射線技師会会長
正者 智昭 様

・13:40~14:20 一般演題 座長 八戸赤十字病院 二部 敬太

「当院 CT 装置における表示値と測定値の関係」

福島赤十字病院 玉根 勇樹

「iCAN における冠動脈 CT 画質均一化の試み」

盛岡赤十字病院 佐々木 駿

「Deep learning 技術(Aice)を搭載した 80 列 CT 装置の基礎的評価」

八戸赤十字病院 小村 俊平

「原子力災害拠点病院における教育方法の報告」

石巻赤十字病院 山内 雄亮

・14:25~15:15 共同テーマ発表 座長 八戸赤十字病院 古村 茂樹

【新型コロナウイルス感染症への対応】

八戸赤十字病院 盛岡赤十字病院
秋田赤十字病院 仙台赤十字病院
石巻赤十字病院 福島赤十字病院

～東北ブロック各施設より～

・15:20~15:50 特別講演 座長 八戸赤十字病院 東山 正樹

【眼の水晶体の等価線量の実態と
被ばく低減について】

(株)千代田テクノル 青森事務所
工藤 亮裕 様

・15:50~ 閉会の辞 八戸赤十字病院 大澤 哲平

令和3年度事業活動報告

東部ブロック

- 令和3年度 第1回 東部ブロック施設代表者会議
COVID-19感染を考慮して中止
- 令和3年度 第2回 東部ブロック施設代表者会議
COVID-19感染を考慮して中止

第33回 東部ブロック業務研修会

- COVID-19感染を考慮して中止
- 次期研修会開催施設 再度検討が必要

関東地方は 感染症影響を強く受けており 各施設では患者受け入れをする施設が多くあります。
思うように活動ができない状況です。

報告者

2022年2月14日 東部ブロック理事 秦野赤十字病院 湯山浩司

日本赤十字社診療放射線技師会 第11回中部ブロック業務研修会開催報告

当番施設：諏訪赤十字病院

開催方法：DVD 配布、視聴形式は各施設に委任

開催期間：9月上旬視聴開始、質問受付締切9月末日

内容：プログラム参照

Covid19の影響を受け、講演および発表演題は録画したものを一枚のDVDに編集し、各施設において視聴する形態で開催しました。従来の集合型の研修会は当番施設のスタッフも含めて80名程度の参加者でしたが、より多くの方に視聴していただくことができたと思います。しかしながら、質疑応答をリアルタイムで行うことができないため、演者と視聴者が理解を深め合うまでには至りませんでした。

今後、様々な形式で研修会が開催されると思います。WEB開催であれば全国から参加が可能になります。また記録されたデータを保管、公開、管理することも会員の利益につながると思います。この変化をプラスにするために、本会の方向性が示されることに期待いたします。（名二 有賀）

日本赤十字社診療放射線技師会 第11回中部ブロック業務研修会プログラム

開会式

当番病院挨拶 諏訪赤十字病院 放射線技師長 小澤 広行
主催者挨拶 日本赤十字社診療放射線技師会 中部ブロック会長 有賀 英司
来賓挨拶 日本赤十字社診療放射線技師会 会長 正者 智昭 様

日本赤十字社診療放射線技師会会長講演 「日本赤十字社診療放射線技師会の取り組み」

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 正者 智昭 様

話題提供 「日本赤十字社における放射線技師の国際医療救援活動」

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 堀部 良美

会員発表

「ハローベスト装着患者の撮影」

福井赤十字病院 本田 卓誠

「3DCTによる中心静脈評価における希釈造影剤注入方法の違いが画像に及ぼす影響の比較」

伊勢赤十字病院 中西 健太

「バスキュラーアクセス評価におけるシャント血管直接穿刺による3DCTの画質についての検討」

伊勢赤十字病院 下村 勘太

「異なる実効エネルギーの装置間におけるCT値に関する検討」

諏訪赤十字病院 佐藤 萌光

「前立腺癌に対する放射線治療におけるハイドロゲル挿入例のT2WIの至適条件の検討」

伊勢赤十字病院 ○阪口 雅直 太田 傑 伊藤 伸太郎 岡田 和正 釜谷 明

「前立腺癌根治照射におけるハイドロゲルスプレー挿入例のinter-fractional motionの検討」

伊勢赤十字病院 藤原 一輝

「電子線治療で用いる含水ボラスの物理特性の評価」

福井赤十字病院 河邊 大知

「頭部IGRT症例における異なる固定具間のインターフラクショナルセットアップエラーの比較」

諏訪赤十字病院 ○和合 貴美 奥村 聡 五十嵐 幸哲 土屋 俊博 石原 佑貴

「COVID19重症患者のICUにおけるポータブルレントゲンの対応」

福井赤十字病院 永田 寿美子

「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する放射線科の取組み」

岐阜赤十字病院 ○河村 雅健 増喜 菜穂 巳波 剛 笠井 里奈

今村 真奈美 中平 和哉 竹中 明美 多湖 博史

山口 寛泰 小林 洋隆 松下 哲哉 小池 和由

丹羽 和人

「諏訪赤十字病院 放射線診断科におけるCOVID-19への対応」

諏訪赤十字病院 大柴 満暉

特別講演 I 「偶発所見と見逃しの問題 ～診療放射線技師の参画を求む」

諏訪赤十字病院 放射線診断科部長 山下 公仁彦 先生

特別講演 II 「診療放射線技師から大学(診療放射線技師養成校)の教員への道」

新潟医療福祉大学 診療放射線学科 准教授 前島 偉 先生

閉会挨拶

主催者挨拶 日本赤十字社診療放射線技師会 中部ブロック会長 有賀 英司

次回当番病院挨拶 福井赤十字病院 放射線技師長 西村 英明

閉会宣言 諏訪赤十字病院 放射線技師長 小澤 広行

【令和3年度中部ブロック事業報告】

① 第11回中部ブロック業務研修会

幹事病院：諏訪赤十字病院

開催方法：録画DVD配布、視聴形式は各施設に委任

開催期間：9月上旬視聴開始、質問受付締切9月末日

プログラム

日本赤十字社診療放射線技師会会長講演 「日本赤十字社診療放射線技師会の取り組み」

日本赤十字社診療放射線技師会 会長 正者 智昭

話題提供 「日本赤十字社における放射線技師の国際医療救援活動」名古屋第二 堀部良美
会員発表

「ハーベスト装着患者の撮影」福井赤十字病院 本田卓誠、「3DCTによる中心静脈評価における希釈造影剤注入方法の違いが画像に及ぼす影響の比較」伊勢赤十字 中西健太、「バスキュラークラス評価におけるシャント血管直接穿刺による3DCTの画質についての検討」伊勢赤十字 下村勘太、「異なる実効エネルギーの装置間におけるCT値に関する検討」、諏訪赤十字 佐藤萌光、

「前立腺癌に対する放射線治療におけるハイドロゲル挿入例のT2WIの至適条件の検討」伊勢赤十字 阪口雅直、「前立腺癌根治照射におけるハイドロゲル挿入例のinter-fractional motionの検討」伊勢赤十字 藤原一輝、「電子線治療で用いる含水ガラスの物理特性の評価」

福井赤十字 河邊大知、「頭部IGRT症例における異なる固定具間のインターフラクショナルセットアップエラーの比較」諏訪赤十字 和合貴美、「COVID19重症患者のICUにおけるポータブルレントゲンの対応」福井赤十字 永田寿美子、「COVID-19に対する放射線科の取組み」岐阜赤十字 河村雅健、「放射線診断科におけるCOVID-19への対応」諏訪赤十字 大柴満暉

特別講演Ⅰ 「偶発所見と見逃しの問題 ～診療放射線技師の参画を求む」

諏訪赤十字病院 放射線診断科部長 山下 公仁彦 先生

特別講演Ⅱ 「診療放射線技師から大学(診療放射線技師養成校)の教員への道」

新潟医療福祉大学 診療放射線学科 准教授 前島 偉 先生

② 第7回施設代表者会議

幹事病院：名古屋第一赤十字病院

開催方法：講演DVD配布およびZOOMを使用したWEB会議

開催日時：11月初旬視聴開始、11月11日(木)14:00~17:00

当番病院 院長挨拶

日赤愛知医療センター名古屋第一病院 院長 錦見尚道

討論 診療放射線技師法改正による業務拡大について

アンケート結果報告 名古屋第一 大野正美

新規技師長・責任者より各施設報告

講演内容 質疑応答

「うつ病からのサイン～早期発見のために～」

名古屋第一病院 心療相談センター長 太田達朗

「今後の医療における電子化～with & after COVID19～」

量子科学技術研究開発機構 情報基盤部長 奥田保男

令和3年度事業報告（近畿ブロック）

1. 令和3年度第1回近畿ブロック代表者会議 Web（ZOOM）
【日 時】2021年5月19日（水）19時00分～18時20分
【出席者】9名/12施設

2. 令和3年度第2回近畿ブロック代表者会議 Web（ZOOM）
【日 時】2021年7月21日（木）17時00分～18時30分
【出席者】11名/12施設

3. 令和3年度第1回近畿ブロック施設代表者会議 Web（ZOOM）
【日 時】2021年10月7日（木）17時00分～18時15分
【出席者】12名/12施設

3. 令和3年度第2回近畿ブロック施設代表者会議 Web（ZOOM）
【日 時】2022年3月2日（水）17時00分～17時30分
【出席者】11/12施設

4. 第29回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会
【日 時】2021年10月23日（土）13時00分～17時00分
【開催方式】Web開催
【出席者】132名/12施設
【当番病院】京都第一赤十字病院
【研修概要】
 - ① 開催挨拶
京都第一赤十字病院 放射線科部 技師長 加藤 良美技師長
 - ② 開催施設代表挨拶
京都第一赤十字病院 院長 池田 栄
 - ③ 特別講演（基幹災害拠点病院としての役割からコロナ対応に至るまで）
講師 京都第一赤十字病院 院長特任補佐 高階 謙一郎
 - ④ ディスカッション
タスクシフトに関して etc
 - ⑤ 研究発表
8演題
 - ⑥ 閉会式
次回開催施設挨拶 大津赤十字病院 技師長 武田 宣秋
閉会挨拶 京都第一赤十字病院 技師長 加藤 良美

令和3年10月23日(土)13時より京都第一赤十字病院主催にて第29回近畿ブロック研修会が開催されました。昨年度はコロナ禍で中止となり長い歴史の中でも初のオンライン開催となりました。参加者総数は130名でした。

本院池田栄人院長の開会挨拶から始まり、まず最初のプログラムは当院の高階院長特任補佐による特別講演でした。内容は基幹災害拠点病院としての役割から京都府のコロナ対応に至るまで、高階先生ご自身もコントロールセンターで指揮をとられているご経験などを踏まえてお話しいただきました。

次のアンケート調査を基にしたパネルディスカッションでは、業務拡大によるタスクシフト、夜間・休日の勤務体制、コロナ患者の対応について各施設代表者にパネリストとして参加していただき、活発な討論がなされました。特に業務拡大によるタスクシフトについては各施設で現時点での方針に違いがありました。

最後の会員からの研究発表では8演題の発表がありました。主に若手の会員からの発表で、日常業務の中での学術的なものから、人材育成や急変時の対応のものまであり大変興味深いものでした。

今回、近畿ブロック研修会では初の試みとなるZoom Webinarでのオンライン開催でしたが、特に大きなトラブルもなくあっという間の4時間でしたが、まずまずの出来だったのでと思っています。最後になりましたが当日ご発表いただいた先生方、会員の皆様、そしてご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

令和3年度 第10回中国・四国ブロック研修会開催報告

2021年11月20日に令和3年度 第10回日本赤十字社診療放射線技師会中国・四国ブロック研修会ならびに施設代表者会議をWebにて開催いたしました。

| | | |
|---------|------------|-------------|
| 施設代表者会議 | 11月20日 土曜日 | 10:30～11:30 |
| ブロック研修会 | 11月20日 土曜日 | 13:00～16:30 |
| 開催施設 | 山口赤十字病院 | |
| 参加者 | 117名 | |

初めてのブロック研修会担当、しかも、初めてのWeb開催ということで緊張の連続でした。途中トラブル等が有りましたが、無事終了することができました。大変多くの方に参加をいただき誠にありがとうございました。

第10回 日本赤十字社診療放射線技師会 中国・四国ブロック研修会

日時：令和3年11月20日（土）13:00～ Web開催

担当：総合病院 山口赤十字病院

※研修会参加用URLは登録メールアドレスへご案内いたします。

※入室時には受信メールに記載されているパスコード入力が必要です。

－プログラム－（敬称略）

12:30～ ZOOM入室可能

13:00～13:10 開会、開催地代表挨拶

山口赤十字病院 放射線科部 技師長 土井 博志

13:10～13:40 会長講演

座長 山口赤十字病院 土井 博志

『日本赤十字社診療放射線技師会の取り組み』

日本赤十字社診療放射線技師会会長 正者 智昭

13:40～14:40 特別講演

座長 山口赤十字病院 松永 千晶

『新型コロナウイルス感染対策の変遷と現在の考え方』

福岡赤十字病院 副院長 兼 感染防止対策室長 石丸 敏之

14:40～14:50 休憩

14:50～16:00 パネルディスカッション：COVID-19患者などの感染対策について

座長 山口赤十字病院 山下 勉

山野井 健

①『高松赤十字病院カテ室におけるCOVID-19対応』

高松赤十字病院 榎殿 元誉

②『COVID-19感染患者の受け入れ時の対応について（仮）』

鳥取赤十字病院 足立 奈々恵

③『当院のCOVID-19患者に対する受け入れ及び感染対策の実施方法』

松山赤十字病院 濱田 拓也

④『当院のCOVID-19対応について』

山口赤十字病院 河野 拓也

16:00～ 次回開催地代表挨拶

事務局 山口赤十字病院 内藤 貴之

E-mail: naito@yamaguchi-redcross.jp

令和3年度 第21回九州ブロック研修会開催報告

令和4年1月28日（金）に令和3年度 日本赤十字社診療放射線技師会 第21回九州ブロック研修会ならびに施設代表者会議をZOOMを使用してWebにて開催いたしました。

担当施設：嘉麻赤十字病院・今津赤十字病院・鹿児島赤十字病院

参加者：99名

初めてのZOOMを使用してWeb研修会でしたが、関係者のご協力のより無事に開催する事ができました。

また、日本赤十字社診療放射線技師会会長の正者会長よりご講演を賜りとても充実した研修会となりました。

時間が経つのが忘れる程、活発で有意義な研修会ならび施設代表者会議でした。

日本赤十字社診療放射線技師会 第21回九州ブロック研修会（※敬称略）

日時：令和4年1月28日（金）17：30～19：00（16：30より入室可能）

研修会方法：WEB会議

〈プログラム〉

司会進行

今津赤十字病院 三谷 孝二

○開会挨拶 【17：30～17：35】

担当施設代表

鹿児島赤十字病院 吉見 公作

九州ブロック理事

熊本健康管理センター 宮田 貞司

○会長講演 【17：35～18：05】

「日本赤十字社診療放射線技師会の取り組み」

日本赤十字社診療放射線技師会 会長

京都第二赤十字病院 正者 智昭

○情報提供 【18：05～18：25】

「災害救護研修会 情報提供」

唐津赤十字病院 坂井 征一郎

○次期開催施設挨拶 【18：25～18：30】

熊本赤十字病院 西小野 昭人

○休憩 【18：30～18：35】

○代表者会議 【18：35～19：00】

議題は別紙参照

CT 専門部会

代表世話人 成田赤十字病院 笹田 勇造

活動報告（2021 年度）

コロナ禍で活動できず、今年度の CT 専門部会は「活動なし」として報告します。

MRI 専門部会

代表世話人 八戸赤十字病院 大澤 哲平

活動報告（2021 年度）

今年度の活動にですが、心臓デバイスの緊急時でのアンケートの作成や、前年度に行った頭部プロトコルについてのアンケート結果のまとめなどの準備していました。しかしながら、コロナ禍で集計活動できず、今年度は活動報告できる結果がありません。したがって、残念ではありますが、今年度の MRI 専門部会は「活動なし」として報告します。

核医学専門部会

代表世話人 さいたま赤十字病院 小池 克美

活動報告（2021 年度）

会員より、「小児核医学検査の鎮静時の対応について」日赤放射線技師会のポータルサイトにてアンケート調査の依頼があった。

乳房画像専門部会

代表世話人 長浜赤十字病院 西関 剛

活動報告（2021年度）

残念ながら「活動なし」で報告いたします。web を利用しての活動を模索いたしましたが、実現には至っておりません。今後も世話人と話し合いを継続したいと思っております。

放射線治療専門部会

代表世話人 日本赤十字社医療センター 丸山 大樹

活動報告（2021年度）

2021年度、放射線関連学会などの学術大会やセミナーは新型コロナウイルスの感染状況に対応するため、現地とオンラインを組み合わせたハイブリッド開催が本格化した。治療専門部においてもオンラインを利用した専門部活動を検討するため世話人によるオンライン会議を実施、各地区でのオンライン環境の利用状況をヒアリングした。これまでの会員 SNS を利用した情報発信および情報共有に加え、オンラインを利用したイベントを実施することにより、より赤十字病院スタッフのつながりを強くすることができることを確認した。

医療情報専門部会

代表世話人 松江赤十字病院 加藤 秀之

活動報告（2021年度）

- 医療被ばく線量管理システムの導入に関するアンケートの結果を一般会員に公開した。
- 同アンケート結果をもとに疑問点などを抽出し、導入済み施設への再アンケートの準備を行った。

令和3年度 災害医療支援部 災害医療受援研修会

| 月日 | 時 間 | プ ロ グ ラ ム | 詳細内容 | 内容参考研修 |
|-----------------------|--------------------|---|--|------------------|
| 3 月 1 2 日 | 9:30 ~ 9:50 | zoom入室可能 | | |
| | 9:50 ~ 10:00 0:10 | 開会式 挨拶：日本赤十字社診療放射線技師会会長 正者智昭 | | |
| | 10:00 ~ 11:00 1:00 | 講義 1：災害医療概論 | 災害の定義や種類 災害医療の体系的アプローチ CSCATTT トリアージについて | 本社 全国救護 班研修より |
| | 11:00 ~ 11:10 0:10 | 休憩 | | |
| | 11:10 ~ 12:00 0:50 | 講義 2：災害医療活動スキル | 記録・情報収集・通信 | 本社 全国救護 班研修より |
| | 12:00 ~ 13:00 1:00 | 昼食・休憩 | | |
| | 13:00 ~ 14:00 1:00 | 講義 3：災害医療における放射線業務の現状 | これまでの災害における放射線技師の活動に関する報告（主に支援活動） 日本赤十字社の活動を中心に | 派遣型災害医療（国内）講演より |
| | 14:00 ~ 14:10 0:10 | 休憩 | | |
| | 14:10 ~ 15:30 1:20 | 実習 1：災害時対応シミュレーション 1 （グループワーク） | 被災地病院での対応シミュレーション1（設問1・2・3） 初動の動的対応について ※災害対応マニュアルに関する内容中心 | 派遣型災害医療（国内）講演より |
| | 15:30 ~ 15:40 0:10 | 休憩 | | |
| | 15:40 ~ 16:50 1:10 | 実習 2：災害時対応シミュレーション 2 （グループワーク） | 被災地病院での対応シミュレーション2（設問4・5） 事前準備、復旧について ※BCPIに関する内容中心 グループワーク | 派遣型災害医療（国内）講演より |
| | 16:50 ~ 17:00 0:10 | 閉会式 挨拶：災害医療支援部 理事 坂井征一郎 | | |



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

第2回 日本赤十字社診療放射線技師会 施設代表者会議

令和4年1月15日（土）

13:00～13:05
開会式

開会の辞
会長 正者 智昭

13:05～13:45
本社講演1

赤十字病院グループの現状（仮）
医療事業推進本部 病院支援部長 尾崎 耕路
座長 副会長 浅妻 厚

13:50～15:40
本社講演2
パネルディスカッション

大型医療機器共同入札の概要
医療事業推進本部 病院支援部 参事 太田 吉保

パネリスト

| | |
|-----------|-------|
| 那須赤十字病院 | 山下 明 |
| 前橋赤十字病院 | 渡邊 寿徳 |
| さいたま赤十字病院 | 尾形 智幸 |
| 富山赤十字病院 | 四十九一嘉 |
| 裾野赤十字病院 | 庄司 智昭 |
| 伊勢赤十字病院 | 釜谷 明 |
| 益田赤十字病院 | 下間 友文 |

司会 会長 正者 智昭

15:50～16:30
本社講演3

人材育成
医療事業推進本部 経営企画部経営企画課長 古源 真
座長 教育・チーム医療担当理事 林 奈緒子

16:35～16:55
アンケート報告

**全国赤十字病院における
タスクシフト・シェアに関するアンケート報告**
日本赤十字社診療放射線技師会 副会長 荒井 一正
座長 副会長 竹安 直行

16:55～17:00
閉会式

閉会の辞
監事 松井 久男

日時

令和4年 1月 15日（土） 13:00～17:00（12:30より入室可能）

開催方式

WEB（ZOOMウェビナー）

対象

施設代表者を含む課長職3名まで可

お問合せ：

日本赤十字社診療放射線技師会 事務局
成田赤十字病院放射線科 大竹 寛
TEL0476 22 2311（代表）
email ohtake_satoru@naritasekijyuuji.jp

各ブロック研修会など

令和4年度

第 32 回

日本赤十字社診療放射線技師会 北海道地区会研修会

開催日：2022年 9月 3日(土)
9時00分より
オンライン開催



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

研修会プログラム

● 9時00分:開会・オリエンテーション 総合司会 北見赤十字病院 大友 厚志

● 開会の挨拶 会長 小清水赤十字病院 岩田 雄一

● 9時10分:会員研究発表 座長 浦河赤十字病院 石川 辰美
釧路赤十字病院 熊谷 敬広

1. DirectDensityの性能評価 北見赤十字病院 越智 啓介

2.高速撮影における面内分解能からみた最適条件の検討
旭川赤十字病院 田中 健登

3. DualEnergy CT におけるヨード定量精度に関わるパラメータの検討
北見赤十字病院 加藤 紘充

4. ERCPにおけるCアーム型X線TV装置のオーバーチューブとアンダーチューブ
による被ばく低減の検討 旭川赤十字病院 中澤 幸奈

5.IVR部門による診療放射線技師のタスクシフトと新たな支援強化の取り組み
北見赤十字病院 北村 康大

6.ポータブル撮影装置の散乱線補正処理に関する基礎的検討
北見赤十字病院 小林 航

7.胸腰椎側面撮影におけるFPD内部構造の写り込み防止に関する検討
旭川赤十字病院 佐竹 宏紀

————— 休 憩(5分) —————

● 10時25分:特別企画 座長 北見赤十字病院 長島 正直

**「まだまだ進化する、知っておきたいCTの最新動向」
-主要メーカーから、CT先端技術紹介します！-**

キャノンメディカルシステムズ、GEヘルスケア、PHILIPS、
シーメンスヘルスケア、富士フィルムヘルスケア

● 12時25分 閉会の挨拶 北見赤十字病院 長島 正直

DirectDensityの性能評価

越智啓介、伊藤卓也、福島理夫、秋田尚久、山田莉緒
北見赤十字病院

Key word :

【背景・目的】

放射線治療計画CTは線量計算の観点から管電圧120kVでの撮影が一般的である。DirectDensity (以下DD)は管電圧に関わらず一定の相対電子密度(以下RED)へ変換できる。DDは視認性の優れた画像による“標的の輪郭描出”と“線量計算”の両立が可能とされており、その性能評価を行った。

【方法】

- ①REDが既知のロッドを配置したファントム
- ②水・骨ファントムを重ねた自作ファントムを用い、DDと従来の再構成法で比較した。

【結果・考察・結語】

DDにてCT値とREDの関係に差は認められず、線量分布は一致した。DDの精度は高く、適切な管電圧での撮影により、輪郭抽出精度の向上が期待される。

高速撮影における面内分解能からみた最適条件の検討

田中 健登
旭川赤十字病院

Key word :

【背景と目的】

管球回転時間(RT)を短く、またはピッチファクタ(PF)を大きくする高速撮影が有用である。RT、PFを変えた場合のMTF、NPSを測定し、体幹部の高速撮影における最適な撮影条件を検討した。

【方法】

MTFはワイヤー法により、center MTF、off center MTFを測定した。NPSは円柱水ファントムを撮影し、仮想スリット法で求めた。MTF、NPSともにRT/PFを0.35/0.813、0.275/0.813、0.5/1.388、0.35/1.388と変化させて測定した。

【結果と考察】

MTFはcenter、off centerともに各RT/PF間にて有意差は認めず、NPSはRTを短く、PFを大きくするほどNPS値が上昇した。CT-AECにて撮影に必要な線量が得られ、NPSは線量の低下に影響を受けなくなるため、撮影時間が最短となる0.35/1.388を採用しても画質の劣化は少ないと考えられる。

Dual Energy CT におけるヨード定量精度に関わるパラメータの検討

加藤 紘充、安藤 直人、小笠原 尚樹、古川 望、長島 正直

北見赤十字病院

Key word :

【目的】

近年Dual Energy CT撮影が注目され、ヨードの定量値を用いてリンパ節転移の有無を判断し外科手術におけるリンパ節郭清の範囲決定に有用であるといった報告もある。

今回、我々はCT装置の撮影条件がヨード定量精度に与える影響について検討した。

【方法】

40×30cm径のマルチエナジーファントム(GAMMEX社製)を使用し撮影方式の違い、撮影管電圧の組み合わせ、線量、回転時間、ピッチ、カーネルを変更して1条件あたり30回撮影した。ヨード定量値を測定し統計解析を行った。

【結語】

Dual Energy CTで測定したヨード定量値は撮影条件により精度が変わるため、定量解析を行う場合は決まった撮影条件で撮影することが望ましい。

ERCPにおけるCアーム型X線TV装置のオーバーチューブとアンダーチューブによる被ばく低減の検討

中澤 幸奈、福屋 香菜子

旭川赤十字病院

Key word :

【背景】

当院では、Cアーム型X線TV装置が導入され、一台でオーバーチューブ及びアンダーチューブの検査が可能となった。

【目的】

今回ERCP検査を想定し、オーバーチューブとアンダーチューブでどちらが医療従事者の被ばく低減に効果的か検討した。

【方法】

散乱線防護クロスを着用したオーバーチューブと防護板を着用したアンダーチューブで、医療従事者の立ち位置と想定される33点の空間線量率を計測した。高さは水晶体と腹部の仮想点として床から150cmと100cmとした。

【結果】

水晶体と腹部の高さのそれぞれ33点は、オーバーチューブの方がアンダーチューブよりも空間線量率が低い計測点が水晶体で31点、腹部で27点という結果が得られた。また、最大差は水晶体で43.6 μ Gy/h、腹部で390.7 μ Gy/hで、いずれも最大値はオーバーチューブの方が低い結果となった。

【結語】

ERCP検査においてはオーバーチューブの方が医療従事者の被ばく低減に効果的である可能性が示された。

IVR部門による診療放射線技師のタスクシフトと 新たな支援強化の取り組み

北村 康大、大友 厚志

北見赤十字病院

Key word :

【要旨】

当院では2018年に脳神経外科血管内治療専門医の配属を機に、IVR担当技師の編成と24時間対応の体制が始まった。2019年にはタスクシフト/シェアの一貫として、循環器内科カテーテルの清潔野介助を開始した。

また2021年10月1日の法令改正で業務拡大されたのを機に、告示研修を受講した技師がPPM埋め込み術前の鎖骨下静脈造影を開始した。

上記の通り2018年から現在に至るまで、医師への支援強化を進めてきた。そこで、IVR部門のタスクシフト/シェアが進められ約4年になり、機能性・システムの評価や見直し、今後のタスクシフト/シェアのneedsを知るために院内アンケートを実施した。

ポータブル撮影装置の散乱線補正処理に関する基礎的検討

小林 航、佐藤裕樹

北見赤十字病院

Key word :

【背景】

当院では腹部などのポータブル撮影の際に散乱線補正処理であるVirtual Grid(VG)を使用しているが、Real Grid(RG)との違いを検討していなかった。

【目的】

VGとRGを使用した画像を比較し、基礎的な画像特性を比較した。また、撮影条件と入力条件の乖離による画像への影響も検討した。

【方法】

CNR・MTFを測定し、VG使用時とRG使用時の特性の違いを比較した。撮影条件と入力条件の乖離について、乖離の起こりやすい撮影距離についてRMSEを用いて評価した。

【結果】

CNRはVG使用時の方が良好な結果が得られ、被爆低減の可能性が示唆された。MTFに関してはRG使用時との大きな違いはなかった。撮影条件と入力条件の乖離による影響も物理的に評価することができた。

胸腰椎側面撮影におけるFPD内部構造の写り込み防止に関する検討

佐竹 宏紀

旭川赤十字病院

Key word :

【背景】

椎体側面撮影では、側臥位困難な患者に対し管球を横向きにして照射することで仰臥位のまま撮影している。その撮影法において画像内にFPDの内部構造が写り込み、読影に悪影響を及ぼす事例を経験した。

【目的】

画像内にFPDの内部構造が写り込む条件の把握とその対策について検討した。

【方法】

1. 撮影条件は80kV、32mAs、SID180cmとし、アクリルファントムの厚さを10、15、20、25cmと変化させた。
2. 80kV、SID180cm、ファントム厚は25cmに固定し、mAs値を16、32、48、64mAsと変化させた。併せて1、2の条件において照射野の大きさも30cm×30cmから90cm×90cmまでの三段階変化させ、内部構造写り込みの程度に対し視覚評価を行った。

【結果】

ファントム厚15cm以上かつ照射野60cm×60cm以上の時に写り込みは発生した。そして、ファントム厚が厚くなるほど、また照射野が大きくなるほど写り込みは顕著となった。一方、mAs値を変化させても影響は見られなかった。

【結語】

FPD内部構造の写り込みが起こる条件を把握することができた。照射野を被写体に合わせて絞ることが写り込みの防止に有用である。

令和4年度 日本赤十字社診療放射線技師会 東北ブロック研修会活動報告

八戸赤十字病院 東北ブロック理事 松倉 裕次

令和4年度東北ブロック研修会は、令和4年11月26日にZOOMを用いてWeb開催致しました。担当である八戸では、病院内での会場から配信しましたので、その様子を写真も交えて報告致します。

まず研修会の準備から始まり、今年度の東北ブロック理事による開会の辞にて研修会を開催いたしました。

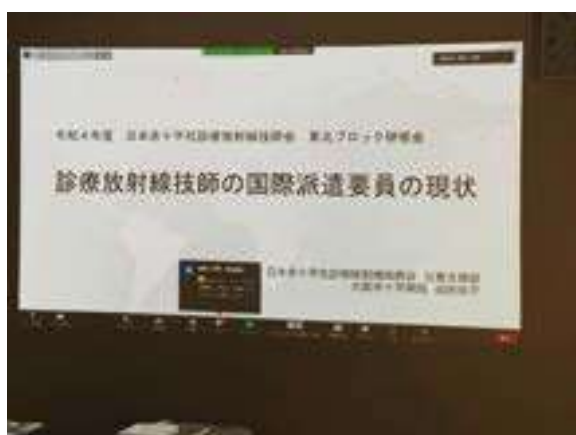


準備の様子



開会の辞

○特別講演では、日本赤十字社診療放射線技師会 災害支援部 大阪赤十字病院の嶋田 祐子様、「診療放射線技師の国際派遣要因の現状」と題しまして講演していただきました。



特別講演



Web画面



質疑応答



座長

国際派遣要員の条件や嶋田様を含めた諸先輩方の活動の様子を講演していただきました。質疑においては今まで大変だった経験などや派遣先でのストレスに関する質問がありました。また、国際派遣要員になるためには色々なハードル(TOEIC スコア等)をクリアする必要と職場の協力体制を整えることが、今後の国際派遣要員の人材育成において重要ではないかと思いました。

○一般演題では各施設から若手の発表としましたところ、たくさん集まりその中から時間の関係上全部で 10 題とし、3 部構成で演題を行うこととしました。

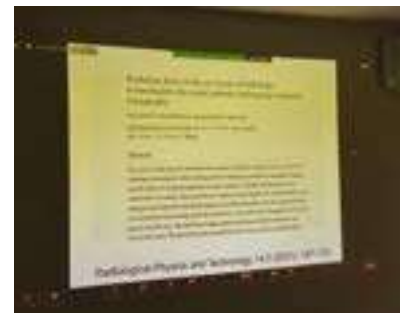
第 1 部では CT に関する 3 演題を行いました。



第 1 演題



第 2 演題 質疑応答



第 3 演題

CT に関する演題が多く、撮影条件に関すること、Deep Learning を用いた画質評価、CT 介助時の水晶体被ばく及び防護眼鏡の効果など大変参考になりました。当院でも防護眼鏡の効果を知り、水晶体被ばくに関わる医師へ装着させていきたいと思っております。

○第2部でもCTに関する3演題を行いました。



第1演題



第2演題



第3演題



質疑応答



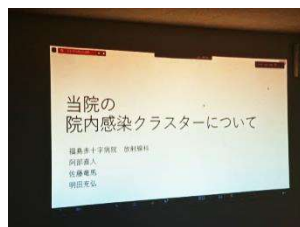
座長

第2部でもCTに関する演題で小児等の低管電圧撮影、心臓等の320列CT使用経験、人工関節手術支援ロボットの紹介の3演題でした。小児被ばくを考慮した条件や320列CTを有している施設の心臓CTの優位なところ、人工関節手術支援に必要なCT情報など今後のCT撮影などに役立つような内容となりました。

○第3部はCOVID-19に関する演題2題と被ばく管理、放射線治療の4演題を行いました。



第1演題



第2演題



第3演題



第4演題



質疑応答



質疑応答



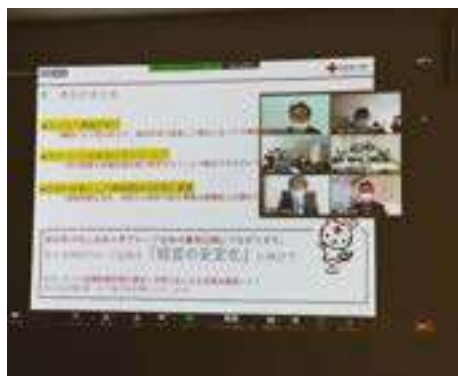
座長

COVID-19 への対応の変化や、院内クラスターの経時的な様子、水晶体被ばくに伴った被ばく管理体制、精度管理の重要性など多岐にわたった発表内容でした。特に COVID-19 に対する消毒方法は徐々に変化しているようでした。

○教育講演では、日本赤十字社医療事業推進本部へ共同購入に関する講演を依頼し、病院支援部の林 宏泰様より「大型医療機器共同入札の概要」と題しまして講演していただきました。



教育講演



講演の様子



林 宏泰様



座長

教育講演の座長は現在共同入札に関わっている盛岡赤十字病院の川原 猛課長へ依頼しました。共同入札の最大メリットは価格を大幅に抑えることが出来ること、デメリットとしては事務手続きが煩雑、納入までが長期間、希望機種とは限らないなどがあることがわかりました。あらかじめ定期的に機種更新できる施設にとっては非常に有効だと思いました。また、耐用年数を超えて使用するような施設では定期的な更新が難しいと考えますが、共同入札をする時期を十分に検討し入札に参加することで価格を抑えた購入が期待できると思いました。



閉会の辞

最後は次年度から担当病院である福島赤十字病院 佐藤勝行技師長の挨拶をもって、閉会の辞とさせていただきます。

今回も ZOOM 使用による Web 開催となりましたが、大きなトラブルもなく皆様のご協力により成功裏に終了することができました。

参加していただいたすべての方々および災害支援部、事業推進本部、東北ブロック各施設の所属長並びに技師、会長をはじめ常任理事の皆様のご尽力に深く感謝し、報告とさせていただきます。

プログラムについては以下をご覧ください。

令和4年度 日本赤十字社診療放射線技師会 東北ブロック研修会

開催日 : 令和4年11月26日(土) 13:00(12:30接続開始)~16:30
 開催場所 : 八戸赤十字病院(日赤ホールWeb開催)
 参加費 : 無料



当日のWeb開催はZOOMとなります。
 登録のURLまたはQRコードよりアクセスして下さい。

ミーティングID: 853 0303 1453
 パスコード: 092727

プログラム

司会 八戸赤十字病院 藤原 真帆、山本 夏輝

- 12:50~ ZOOMによる研修会の使用説明
- 13:00~13:05 開会の辞 東北ブロック理事 八戸赤十字病院 松倉 裕次
- 13:05~13:35 特別講演 座長 八戸赤十字病院 東山 正樹

【 診療放射線技師の国際派遣委員の現状 】 日本赤十字社診療放射線技師会 災害支援部
 大阪赤十字病院 嶋田 祐子様
- 13:45~14:15 一般演題 第1部 座長 八戸赤十字病院 小村 俊平

「 頭部CT撮影 撮影条件の検討 」 秋田赤十字病院 村井 悠矢
 「 DeepLearning再構成の物理特性と画質評価について 」 盛岡赤十字病院 平 苑佳
 「CT撮影時の患者介助における放射線技師の水晶体被ばくと放射線防護眼鏡の防護効果」 仙台赤十字病院 鈴木 隼
- 14:25~14:55 一般演題 第2部 座長 八戸赤十字病院 根城 昂尚

「 低管電圧撮影について 」 盛岡赤十字病院 布田 哲也
 「 320列CTの導入と使用経験について 」 石巻赤十字病院 高橋 和也
 「 人工関節手術支援ロボット「Mako」の紹介 」 秋田赤十字病院 庄司 悠人
- 15:05~15:45 一般演題 第3部 座長 八戸赤十字病院 鳥越 亮大

「 当院におけるCOVID-19陽性者への放射線検査の対応~1年後~ 」 石巻赤十字病院 和田かおり
 「 当院における二度の院内感染クラスターについての報告 」 福島赤十字病院 佐藤 竜馬
 「 当院の放射線業務従事者被ばく管理体制について 」 仙台赤十字病院 坂本 睦美
 「放射線治療装置の幾何学的精度確認におけるBall Bearing設置誤差が与える影響」 八戸赤十字病院 橋本 和真
- 15:55~16:25 教育講演 座長 盛岡赤十字病院 川原 猛

【 大型医療機器共同入札の概要 】 日本赤十字社 医療事業推進本部
 病院支援部 林 宏泰 様
- 16:25~16:30 開会の辞 福島赤十字病院 佐藤 隼行

日本赤十字社 診療放射線技師会

第12回中部ブロック業務研修会 オンライン(ハイブリット型)福井開催について

令和4年9月3日(土)、第12回 日本赤十字社 診療放射線技師会中部ブロック業務研修会を、Zoomミーティングを用いたオンライン(ハイブリット形式)開催しましたので報告します。

今回の研修会は、メイン会場(福井)、サテライト会場(6施設)、各会場で参加および、個人参加によるオンライン形式ハイブリット形式とし、参加者は、17施設から、112名の参加がありました。オンライン(ハイブリット形式)開催でしたが、従来の会員発表、特別講演、専門部会できるように、Zoomブレイクアウトルーム機能も駆使した上での開催ができました。

日本赤十字社診療放射線技師会 正者会長挨拶に始まり、会員発表は5施設から8演題、特別講演として、福井赤十字病院 脳神経外科部長 西村 真樹先生による「**脳卒中治療 Update-脳梗塞治療の変遷-**」のご講演がありました。脳梗塞治療の最新の話題情報の話や、我々診療放射線技師に求められるお話もあり、大変興味深い講演内容でした。

専門部会では、一般撮影部門、CT部門、MRI部門、放射線治療部門、代表者部門の5つに分かれたブレイクアウトルームで、事前アンケートの結果をもとに、情報提供、ディスカッションが行うことができました。活発な話し合い、意見交換となった専門部会もあった様子で、時間切れとなってしまった専門部会もありました。

例年以上の多数の参加をいただき、施設を超えて交流を深めることができた有意義な研修会であったと思います。

最後に、今回の開催に当たりまして、格段のご尽力をいただきました サテライト会場のスタッフの皆様、そして本研修会の運営に携わってくださった皆様、さらには会場の設営にご協力下さった皆様の初め、多くの関係者の皆様にご協力いただき心より感謝を申し上げます。





会員発表



質疑応答



特別講演



サテライト会場



特別講演

専門部会 ブレイクアウトルーム(MRI)



専門部会 ブレイクアウトルーム(治療)



専門部会 ブレイクアウトルーム(代表者)



第 8 回中部ブロック技師長・責任者会議 報告

2022 年 11 月

2022 年 11 月 10 日、11 日の 2 日間、伊勢赤十字病院と伊勢シティホテルにおいて第 8 回中部ブロック技師長・責任者会議が開催された。以下、概要について報告する。

11 月 10 日

13:10～ 院長講演 「チーム活動と病院の活性化について」

座長 伊勢赤十字病院 釜谷 明

講師 伊勢赤十字病院 院長 楠田 司 先生

現在、医療の高度化や複雑化そして地域での医師不足問題、年々強くなる医療サービスの向上を求める国民の声を受け、安全で質の高い医療の効率的な提供に資するチーム医療体制の必要性が求められる。医師あるいは医療の確保のために病院経営の効率化が取り上げられ、医師業務の見直しと他職種の活用が謳われている。具体的には他職種への業務移行、チーム化の必要性等が指摘されているが、この医師対策は、早急に解決しなければならない大きな課題となっている。



今回の本題であるチームとしての活動が当院の病院運営にどうかかわっているかを課題も含め述べられた。具体的には「研修センター設立」「TQM 活動」「チーム医療の取り組み」「働き方改革の対応」などである。特に医師の負担軽減対策については「整形外科チームへ専従内科医師の投入」「放射線読影医師の自宅に読影装置の設置」「フレキシブルな働き方の提案や医療者用コミュニケーションアプリ Join の活用」「専門研修 5 年未満の若手医師でも SCU 当直を可能とした当直医の実質的増員の推進」「外来化学療法チームでの薬剤師外来の活用」「ICT チームでの抗 MRSA 薬血中濃度測定と投与量の決定権限の付与」「持参薬継続内服の可否の決定」「薬剤溶解液の適時変更の権限付与」「主治医を介さない疑義紹介時の対応」「放射線技師の透視、内視鏡検査時の常時介入」などを挙げ、チーム活動を含めたタスク・シフト/シェアの例を具体的に述べられた。今後も医師の働きやすい環境整備を進めなければならないとのことであった。

最後に診療放射線技師の地域連携として、かかりつけ医への協力体制である「放射線安全管理ネットワーク」の活動についてもご紹介いただいた。チーム医療の推進は働き方改革にも一定の効果があり、今後も様々なチーム活動を進めていきたいと述べられた。

14:10～ 会長講演 「大型医療機器共同入札事業について」

座長 伊勢赤十字病院 林 奈緒子

講師 日本赤十字社診療放射線技師会 会長 正者 智昭 先生

日本赤十字社診療放射線技師会の正者智昭会長から「大型医療機器共同入札事業について」と題してご講演いただいた。内容は、第 58 回日本赤十字社医学会総会での第 4 回赤十字購買フォーラム「大型医療

機器共同入札事業の推進～他組織との共同事業～」での議論を、本会議の参加者とも共有する形で進められた。

まず共同入札おさらいとして、赤十字グループ全体の経営の安定化を図るべく健全な財政基盤の構築を行う必要があると述べられ、経営状況の推移が示された。次に共同入札の概要と総合評価落札方式について、事業全体のスケジュールの説明がなされた。共同入札全体の参加状況と実績の推移が紹介され、そこでは「全ての施設において参加を強く推奨する」という基本方針に言及された。現場からみた共同入札として、機種選定を適正な判断で行うことができれば、病院の機能、診療科の機能に合った無駄のない効率的な機器購入が可能となる、その「適正な判断」のために分析、利用するデータの例を説明していただいた。また、経営側（事務部）と現場（医療技術者）の情報共有と中長期的な更新計画作成には、些細なことでも聞けるお互いの信頼関係が必要であると述べられていた。



最後に、本社常設委員会・部会の関連図の提示があり、技師会が参画しているものとして医療の質向上委員会のチーム医療の推進に関する検討部会、医療安全対策部会、グループ共同事業推進委員会の購買専門部会の説明があった。技師会の役割として、共同入札の参加施設や他病院グループの経験事例の情報収集と共有、総合評価落札における適正な技術的評価を挙げ、赤十字グループにおける連携と達成感の共有であると述べられ、会長講演を終了した。

14:30～ 議題「当院の取り組みについて」

座長 伊勢赤十字病院 林 奈緒子

3 施設発表

金沢赤十字病院 中川 亮二 先生

高山赤十字病院 畑中 信吾 先生

伊豆赤十字病院 土田 真嗣 先生

「当院の取り組みについて」は、本会議が発足した当初から行っている企画であり、集合形式で行っている年では毎回3施設からご紹介いただいている。今回は、金沢赤十字病院、高山赤十字病院、伊豆赤十字病院から、それぞれの取り組みの発表があった。

金沢赤十字病院の中川亮二技師長より「画像診断報告書の見落としを防止するための取り組み」

放射線診断医が作成した画像診断報告書を、検査依頼した診療科医が十分に内容を確認しなかったため、治療の遅れが生じた「見落とし事例」の報道が続き社会問題になっている。また R4 年度の診療報酬改定では、「画像診断情報等の適切な管理による医療安全対策に係る評価」が新設された。このような背景をふまえて、金沢赤十字病院での画像診断報告書の見落とし防止対策を紹介していただ

いた。大まかな流れとしてまずは、主目的の臓器以外にも異常所見があり、見落としの可能性があると放射線科医師が判断した場合、フラグを立てる。その例に対しカルテを参照し他臓器への対応があるかを確認する。なければ医療安全推進室の介入対応としてマークする。室長が 1~2 週後に再確認して、必要であれば検査依頼医に対応を促すというものである。実績の報告もされ、ある 6 ヶ月で全読影レポート件数：3679 件、フラグの立った件数：92 件、医療安全推進室介入事例：13 件、対応確認 8 件、残りの 5 件は現在進行中と転院してしまつた事例とのことであつた。問題点と今後の課題として、最初の放射線科医のフラグがないことには何も起こらないこと、依頼医へ伝達しても対応が遅れるケースもあること等をあげ、ハード面も含むより良い方法を検討していき、「報告書確認管理者」として医療安全推進室と協力していくと述べられていた。



高山赤十字病院の畑中信吾統括課長より「MRI 装置酸素ボンベ吸着事故について」

高山赤十字病院で休日の昼間に発生した MRI 装置酸素ボンベ吸着事故に関して、概要と事故後の対応をまず報告していただいた。さらに、部門内で行つた事故分析と立案した再発防止対策の紹介があつた。今回の事故分析の手法としては「PmSHELL」を用いていた。時間の都合上その詳細を聞くことはできなかったが、今後取り入れるヒントになつた施設もあつたと思われる。再発防止策として、チェックリストの見直し、救急時 MRI 検査ワ

ークフローの見直し、救急外来混雑時の応援体制、MRI 室の施設、磁性体探知機の設置と運用などの紹介があつた。また MRI の安全性についての職員への啓蒙方法については、各施設で工夫されているようであつた。強い磁場への磁性体持ち込みの危険性を訴えるにはやはり動画を用いるのが良いとの意見が会場からも挙がった。休日の昼間に発生している点も合わせると、発生要因は多くの施設で共有されるものであり、安全体制の構築にむけて認識を強く持つことができた報告であつた。



伊豆赤十字病院の土田真嗣課長より

継続的な医療の提供を目指し、技師業務以外にも様々な活動を行っており、それらを紹介していただいた。小規模施設は役割ごとに専従者を配置することが出来ない故の活動であるが、大規模施設では役割がどうしても縦割りになりがちである。病院の規模に関わらず、技師の活動範囲を広げる参考となる紹介であった。高額医療機器共同利用の初回時説明訪問では、事務系担当者ではなく本職である技師が訪問することで、様々な質問にその場で対応でき、また先方の医院とも顔の見える関係を築ける点が有意義である。自治体事業である骨密度検診への参加は、準備段階から本来の担当部署と協力し契約や請求も担っているとのこと。10年ほど経過した現在では、医療社会事業部と協働し、検査と検査結果の入力以外は担当してもらっているとの報告であった。情報システム系の運用・管理では、専任者を配置するには採算が合わないという状況から、病院のネットワークが PACS をベースに構築している背景もあり、放射線部門や総務課から兼務しているとのことであった。遠隔読影の依頼と報告書取得、紹介画像の取り込みも放射線部門が主体となっている。今後の予定としては、低線量胸部 CT 検診、脳ドック、DWIBS 検診を計画しているとのことであった。職員数の増大を抑えるべく出来ることを協力し合い、また本来の業務も増やしていけるよう考えていきたいと述べられていた。

16:00～ アンケート報告 テーマ「タスク・シフト/シェアについて」

進行 伊勢赤十字病院 小林 篤

アンケート報告では、「タスク・シフト/シェア」について昨年に引き続き各施設に事前アンケートを行い、17施設より回答を頂き集計を行った（回答は複数選択可）。昨年のアンケート実施から今回のアンケート実施までの間に告示研修が実施され、具体的なタスク・シフト/シェアの内容や手技が明確になった。

アンケート結果によると、昨年は静脈路の確保から薬剤投与・抜針・止血までを行う予定であると回答した施設が2施設にとどまっていたが、今年は5施設まで大幅に増加した。

また、確保された静脈路から薬剤投与・抜針・止血まで行う予定があるとの回答は5施設あり、今後積極的に取り組んでいこうという考えが見受けられた。一方、予定なしと回答された施設は8施設あった。



「当院におけるタスクシフト、タスクシェアの現状」として、愛知医療センター名古屋第二病院の桑原技師長に現在の取り組み状況や、今後の予定について紹介していただいた。名古屋第二病院では、既に体制を整え診療放射線技師による穿刺業務を行っており、今後は診療放射線技師のインストラクターを育成し、そのインストラクターの指導の下、穿刺業務の習得を目指して行き、今年度中に救急CTにおける造影剤の投与業務は診療放射線技師に完全移行する予定であるとのことであった。



赤十字病院全体では、共通の理念を持ちつつも、各施設の規模や技師人数により将来のビジョンや組織運営方法が異なり、他のメディカルスタッフとの協働体制を整え「タスク・シフト/シェア」を進めて行くこととし、このアンケート報告のセッションを終了した。

11月11日

9:00～ 特別講演「キャリアデザインについて」

座長 伊勢赤十字病院 小林 篤

講師 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 放射線技術科学科 教授 武藤 裕衣 先生

特別講演では「キャリアデザインについて - 多様な人が活躍し、多様な価値観を醸成できる職場にむけて - 」として鈴鹿医療科学大学の武藤先生をお迎えして講演をいただいた。武藤先生は鈴鹿医療科学大学を卒業され、これまでに教育現場のみならず、学会活動や技師会活動、一般臨床などの幅広い分野で活躍されている。それらの経験を踏まて、少子高齢化を背景に、女性の晩婚化による育児や介護の両立を目指したキャリアデザインや、多様な働き方や職場環境に対応したキャリアデザインについて述べられた。

キャリアデザインの方法として「自分がやりたいこと」「既にできること」「やらないといけないこと」の Will-can-must に分類することをあげられた。フレームワークで物事を考えることにより、未来や過去の話が混在せずに現在の内容を整理でき、それぞれの要素を最大化できるように、チャレンジする順番を考えることができるとのことであった。



自分の価値観を知るワークでは、実際に自身の過去のキャリアを書き出し、それぞれ「専門家」「リーダーシップ」「仕事とプライベートの両立」「社会貢献」「創造発想」に分類し自己分析を行った。

最後に、管理職の皆様へのコメントとして、“管理職層の意識が、成功のカギを握っている”とお話しいただき特別講演を終了した。

10:20～ 総合討論「働き方改革について」

進行 伊勢赤十字病院 谷貞 和明

総合討論に先立ち、進行の谷貞より導入講演を行った。内容は大きく分けてふたつで、ひとつ目は厚生労働省パンフレット「働き方改革～一億総活躍社会の実現に向けて～」を基に、働き方改革の全体像について確認を行った。「働き方改革」の基本的な考え方は働く方々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革であること、その実現のためには職場の管理職の意識改革も必要であることを確認した。ふたつ目は事前アンケートの結果を公表した。結果は施設規模等の違いもあり様々であったが、家庭環境への配慮にどう対応していくかが気になるようだった。



討論では育休明け・時短勤務終了者の当直業務への配慮について議論が行われた。技師一人一人の家庭環境が多様であるため、一律の規定で行うことが難しいことが挙げられた。技師数が多い場合は、家庭環境に配慮した対応をとった場合においてもその他の技師にてカバーすることも可能であるが、技師数が少ない場合には対応が厳しくなることも挙げられた。この問題は、管理者や年配技師の対応に関しても同様で、管理者自身も当直業務へ参画し合間をぬって管理業務を行っていることもうかがえる。配慮する具体的な事項を規定として作るのではなく、個々の状況への配慮を決定するプロセスを規定として作成し、適宜改定していくとよいのではという意見があがった。

予定いっぱいまで時間を使ったが、アンケート内容からうかがえる働き方改革について討論すべき問題についてのほんの一部しか討論出来なかった。しかし、普段なかなか話し合うことが困難な他施設での状況やどのように考えて配慮を行っているか等を共有できたことは意義深かったと考える。

11:30～ 中部ブロック連絡会議

● 中部ブロック技師長・責任者会議関連

資料より技師数、病床数の確認を行った。開催予定順序については変更なしで承認された。

副代表は本会議開催施設の責任者が担当する事を確認し、令和 5～6 年度代表は名古屋第二病院の有賀英司氏、令和 5 年度副代表は浜松赤十字病院の佐々木昌俊氏、令和 6 年度副代表は福井赤十字病院の西村英明氏となった。

● 日本赤十字社診療放射線技師会中部ブロック業務研修会関連

資料より開催予定順序については変更なしで承認された。

ブロック理事・ブロック委員の担当グループの確認をし、令和 5～6 年度のブロック理事・ブロック委員は本年度から引き続き以下の通りとなった。

ブロック理事：名古屋第二病院 有賀英司氏
ブロック委員：金沢赤十字病院 中川亮二氏
諏訪赤十字病院 小沢広行氏

中部ブロックの備品について

令和 4 年度中部ブロック業務研修会を WEB 開催するに当たり、資機材を日本赤十字社診療放射線技師会中部ブロックの予算にて購入している。2022 年 11 月時点で福井赤十字病院にて管理台帳を作成し保管および管理されている。管理台帳作成は本部からの指示で、台帳は本部に提出済みである。運用に関しては現状行っていることを継続する事で承認された。その他、予算の運用についての意見は特に上がらなかった。

以上

第 30 回 日本赤十字社診療放射線技師会 近畿ブロック研修会報告

| | |
|-------|----------------------|
| 期 日 | 令和 4 年 10 月 29 日(土) |
| 担当施設 | 大津赤十字病院・大津赤十字志賀病院 |
| 会 場 | 大津赤十字病院 6 階会議室 (Web) |
| 参 加 者 | 12 施設 113 名 |

今回の第 30 回 日本赤十字社診療放射線技師会 近畿ブロック研修会は、大津赤十字病院と大津赤十字志賀病院の協同主催で Web 開催として行った。

はじめに開催施設技師長である武田技師長の開会の宣言に始まり、小川修院長挨拶、特別講演として当院放射線科部長の川原清哉医師より「急性腹症の画像診断」として講演いただいた。救急撮影の業務でよく遭遇する症状からの画像の見方や、消化器系の疾患の注意点、婦人科系の疾患、泌尿器科系の疾患の注意点をわかりやすく話していただいた。また、地方によって遭遇する疾患では、福井では海産物によるアニサキス、和歌山では梅干しの種による閉塞、滋賀では淡水魚による寄生虫疾患などの画像も紹介された。CT 検査では脂肪濃度の上昇や CT 値の計測のために単純撮影が必要なことや、患者のバックボーンも読影に役立ち、依頼科からの情報も必須であることも話された。川原医師自体は放射線被ばくに気を付けて、無駄な被ばくのないように気を付けていることも話され、技術の進歩について期待されていた。

ディスカッションでは事前に依頼したアンケートをもとに、日常業務の運用や、講習会への参加、認定資格の習得状況について紹介し、Zoom の投票機能を用いて参加者からどのように感じているか投票してもらった。管理者が想定していることと、業務従事者が感じていることにある程度乖離があることが分かった。

研究発表では、9 演題の発表があった。Zoom を用い画面の共有や動画の配信を行い、活発な意見交換が行えた。

会員による研究発表と同時刻に、ハイブリッド形式にて施設代表者会議が行われた。

最後に、次期開催施設である京都第二赤十字病院正者技師長の挨拶があり、進行担当の中西課長より閉会の宣言を行った。

第11回日本赤十字社診療放射線技師会中国・四国地区ブロック研修会開催報告

担当施設 松山赤十字病院

施設代表 富永 亨

令和5年2月25日(土)13時よりWeb(Zoom)にて令和4年度第11回日本赤十字社診療放射線技師会中国・四国地区ブロック研修会を開催いたしました。

Web登録数は104件でしたが、複数人で視聴されているご施設もあり登録者以上の会員の皆様の参加がありました。

開会式に引き続き会長講演があり、正者会長により「大型医療機器共同入札事業を振り返る」の演題でご講演をいただきました。また、人工知能を使った医療技術の紹介をメーカー2社より情報提供をしていただき、そのあと各施設における線量管理の取り組みをテーマとして、事前アンケートの集計報告、5施設の会員による発表を行った後、演者によるディスカッションを行いました。最後に次回開催地であります岡山赤十字病院の森下様よりご挨拶をいただき、約3時間の研修でしたが有意義な研修会になったと思います。

ご講演の正者会長をはじめ、発表をいただいた先生方、また、参加された多数の会員の皆様方に、心より感謝を申し上げまして、研修会の開催報告といたします。

《正者会長によるご講演》



パネルディスカッション「線量管理の実際について」



松山赤十字病院 北條先生



徳島赤十字病院 矢野先生



益田赤十字病院 下間先生



松江赤十字病院 山城先生



高松赤十字病院 吉崎先生

第 11 回 日本赤十字社診療放射線技師会 中国・四国ブロック研修会

日時：令和 5 年 2 月 25 日(土) 13:00～16:00

担当：松山赤十字病院

参加費：無料（事前申し込み必須）

視聴方法：Zoom による Web 開催

※右の QR コードおよび URL より参加登録を行って下さい。締め切り期日は 2 月 17 日(金)までと致します。登録して頂いたアドレスに Zoom の招待メールを送ります。入室時にパスワードの入力が必要ですのでご注意ください。

ープログラムー

総合司会 松山赤十字病院 栗田 幸

12:30～ Zoom への入室開始

13:00～ 開会挨拶 松山赤十字病院 中央放射線室 技師長 富永 亨

13:10～ 会長講演

座長：松山赤十字病院 富永 亨

『大型医療機器共同入札事業を振り返る』

演者：日本赤十字社診療放射線技師会 会長 正者 智昭 様

13:40～ メーカー講演

座長：松山赤十字病院 羽藤 寛文

① 『富士フイルム AI 開発の取り組み』

演者：富士フイルムメディカル株式会社営業本部 IT ソリューション事業部 河野 安宏 様

② 『Philips MRI AI 最前線』

演者：株式会社フィリップス・ジャパン MR Modality Sales Specialist 竹元 寿熙 様

14:40～ 休憩

14:45～ パネルディスカッション『線量管理の実際について』

座長：松山赤十字病院 前田 恵 渡部 幸仁

① 線量管理アンケート結果報告 松山赤十字病院 渡部 幸仁 先生

② 『「Dose Manager」を使用した線量管理の実際』 松山赤十字病院 北條 琢人 先生

③ 『徳島赤十字病院における、線量管理の現状』 徳島赤十字病院 矢野 朋樹 先生

④ 『当院における線量管理の紹介』 益田赤十字病院 下間 友文 先生

⑤ 『「Dose Watch」を使用した CT の線量管理』 松江赤十字病院 山城 圭進 先生

⑥ 『当院における線量管理の実際』 高松赤十字病院 吉崎 康則 先生

15:50～ 次回開催地代表挨拶 閉会

令和4年度 災害医療支援部 災害医療受援研修会

| 月日 | 時 間 | プ ロ グ ラ ム | 詳細内容 | 内容参考研修 | 会場 |
|-----------------------|---|--|---|-------------------------|----|
| 1 2 月 3 日 | 9:30 ~ 9:50 0:20 | 受付 | | | |
| | 9:50 ~ 10:00 0:10 | 開会式 挨拶： | | | |
| | 10:00 ~ 11:00 1:00 | 講義 1：災害医療概論 | 災害の定義や種類 災害医療の体系的アプローチ CSCATTT トリアージについて | 本社 全国救護 班研修より | |
| | | 講師： 講師： | | | |
| | 11:00 ~ 11:10 0:10 | 昼食・休憩 | | | |
| | 11:10 ~ 12:00 0:50 | 講義 2：災害医療活動スキル | 記録・情報収集・通信 | 本社 全国救護 班研修より | |
| | | 講師： 講師： | | | |
| | 12:00 ~ 13:00 1:00 | 昼食・休憩 | | | |
| | 13:00 ~ 14:00 1:00 | 講義 3：災害医療における放射線業務の現状 | これまでの災害における放射線技 師の活動に関する報告（主に支援 活動） 日本赤十字社の活動を中心に | 派遣型災害医 療（国内）講 演より | |
| | | 講師： 講師： | | | |
| | 14:00 ~ 14:10 0:10 | 休憩 | | | |
| | 14:10 ~ 15:30 1:20 | 実習 1：災害時対応シミュレーション 1 （グループワーク） | 被災地病院での対応シミュレ ーション1（設問1・2・3） 初動の動的対応について ※災害対応マニュアルに関する内 容中心 グループワーク | 派遣型災害医 療（国内）講 演より | |
| | | 講師： 講師： | | | |
| 15:30 ~ 15:40 0:10 | 休憩 | | | | |
| 15:40 ~ 16:50 1:10 | 実習 2：災害時対応シミュレーション 2 （グループワーク） | 被災地病院での対応シミュレ ーション2（設問4・5） 事前準備、復旧について ※BCPIに関する内容中心 グループワーク | 派遣型災害医 療（国内）講 演より | | |
| | 講師： 講師： | | | | |
| 16:50 ~ 17:00 0:10 | 閉会式 挨拶： | | | | |